

組合員・利用者本位の業務運営に関する取組状況および
K P I 実績値の公表について

2025年11月

2025年11月14日

お客さま本位の業務運営に関する取組状況および K P I 実績値の公表について

J Aグループは、食と農を基軸として地域に根ざした協同組合として、助け合いの精神のもとに、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会の実現を理念として掲げています。

当組合では、この理念のもと、「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」を公表するとともに、組合員・利用者の皆さまの安定的な資産形成に貢献するための具体的な取組みを実践しており、今回その取組状況を公表いたします。

また、上記とあわせ「お客様本位の良質な金融商品・サービスを提供する金融事業者をお客さまが選ぶ上で比較することのできる統一的な指標」（「比較可能な共通K P I」）も同時に公表いたします。

（注）共済事業は、当組合と全国共済農業協同組合連合会（J A共済連）が、共同で事業運営しております。

茨城みなみ農業協同組合

I. 取組状況

1 お客さまへの最良・最適な商品、共済仕組みサービスの提供

(1) 信用の事業活動

【原則2本文および(注)、原則3(注) 原則6本文および(注2、3、6、7) 補充原則1~5本文および(注)】

- 特定の投資運用会社に偏ることなく、社会情勢や手数料の水準等も踏まえたうえで、お客さまの多様なニーズにお応えし、長期安定的な資産形成・運用に資する最適な投資信託を取り扱っております。なお、当組合は、金融商品の組成に携わっておりません。
- JAバンク全体では商品新規導入を行う際は、第三者評価機関からの意見を伺いながら、お客様のニーズに合った商品を取入れ、パフォーマンスが芳しくない場合は取扱いを行わない等、定期的な商品ラインアップの見直しを行っております。それにより以下のように商品数が増減いたします。
- なお、お客様の皆さまにとって最善の利益を実現するために、JAバンク全体として金融商品を購入したお客様の属性情報および販売状況に関する情報等を、投資運用会社に提供するなど情報連携を行っております。

商品選定の考え方：JAバンクHP

<https://www.jabank.org/sp/tameru/tousisintaku/select/>

<投資信託の取扱い商品ラインナップ（2025年3月末時点）>

カテゴリ	国内	海外
債券型	1 (前年度末：1)	5 (前年度末：5)
株式型	5 (前年度末：5)	5 (前年度末：5)
REIT型	1 (前年度末：1)	2 (前年度末：2)
バランス型	11 (前年度末：11)	

※ 現在、新規でお申込みいただけないファンドも含まれておりますが、公社債投信は含んでおりません。

<商品選定の考え方>

2022年4月1日

① コア・サテライト戦略について

保有する資産を「コア(中核)資産」と呼ぶ。コア資産に付随して運用する方法

② JAバンクのセレクトファンド

JAバンクのセレクトファンドは、国内の約6,000本の中から、JAバンクが独自の基準で長期投資に適した投資信託を選別しました。

主な選定基準

- 1 長期投資 長期投資を前提とした投資信託であること
- 2 手数料 手数料が良心的な水準であること
- 3 運用実績 過去の運用実績が相対的に良好であること
- 4 流動性 資産形成期には、適度に分配金を捻出する投資信託ではないこと
- 5 運用体制 運用体制について、外部機関の評価を得ていること

お客さまの長期投資にとって最善の提案を目指し、投資信託を選定しているんだね!

I .取組状況

1 お客さまへの最良・最適な商品、共済仕組み・サービスの提供

(2) 共済仕組み・サービス

【原則2本文および(注)、原則3(注)、
原則6本文および(注2、3、6、7)、補充原則1～5本文および(注)】

- 当組合は、「ひと・いえ・くるま」の総合保障を通じて、お客さまの皆さまを取り巻く様々なリスクに対して、安心して備えられるよう、最良・最適な共済仕組み・サービスを提供しております。
- 市場リスクを有する共済仕組みの提供は実施しておりません。
- 住宅価格の高騰により連帯債務の住宅ローン利用者が増加したことを受けて、団体信用生命共済において従来よりも手厚い保障が可能となる連生タイプの取扱を新たに開始しております。
- なお、共済事業については、全共連と共同で事業運営を実施しており、お客さまの声や実際に販売した顧客情報等について相互に連携しております。

I. 取組状況

2 お客さま本位の提案と情報提供

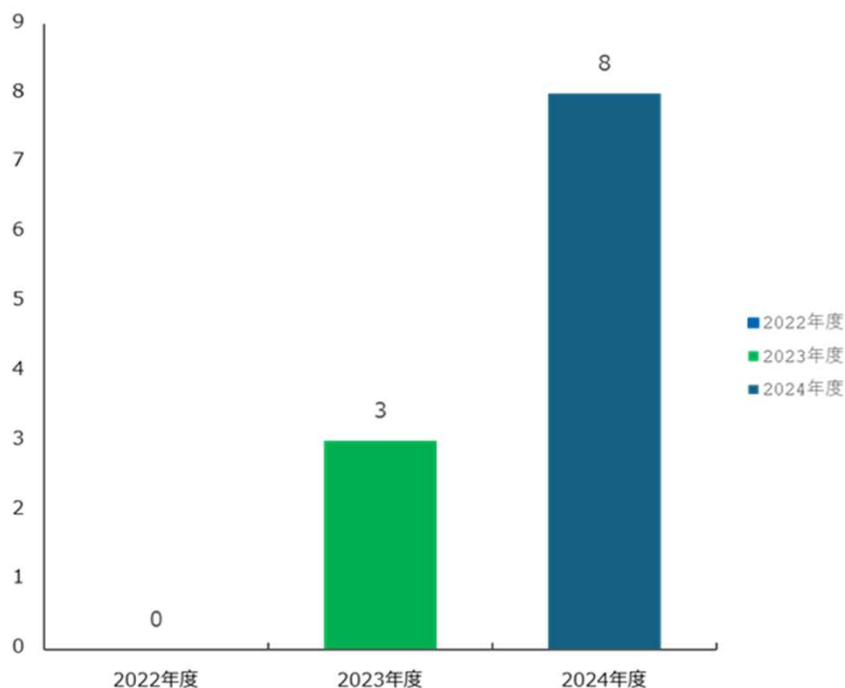
(1) 信用の事業活動①

【原則2本文および(注)、原則5本文および(注1～5)、原則6本文および(注1～7)】

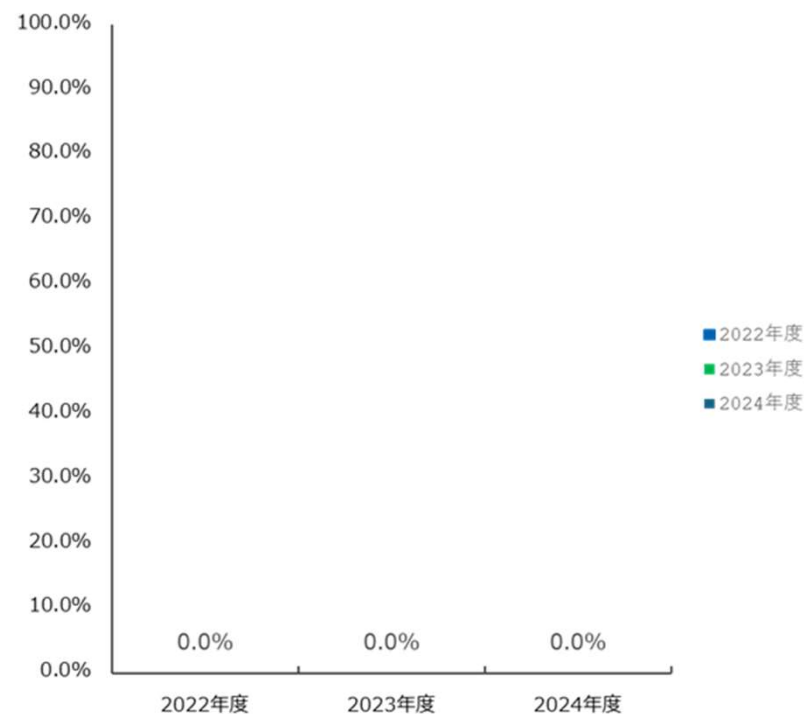
- お客さまに安定的な運用成果をご享受いただくために、お客さまの金融知識・経験・財産、ニーズや目的をお聞きしながら、お客様にふさわしい商品をご提案した結果、「投信つみたて」を利用されるお客さまが増加しました。

<投信つみたて契約件数の推移>

(件)



<購入額に占める毎月分配型ファンドの比率>



I .取組状況

2 お客さまへ本位の提案と情報提供

【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1～7）】

（1）信用の事業活動②

- お客さまの投資判断に資するよう、商品やリスク特性・手数料等の重要な情報を分かりやすく丁寧に提供しております。なお、重要な事項について資料・パンフレットを用いて分かりやすくご説明しております。

I .取組状況

2 お客さま本位の提案と情報提供

【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1・2・4・5）】

(2) 共済の事業活動①

① 共済仕組み・サービスのご提案

- 3Q活動を通じた「あんしんチェック」を実施することで、お客さまの皆さま一人ひとりのご意向に沿った保障見直しや保障のご提案により、万が一の際の万全な保障を提案しております。
- 共済仕組み・サービスの提案にあたっては、お客さまの皆さま一人ひとりのご意向に基づき、ご年齢や家族構成、保障に関する知識、資産状況などをふまえ、最良・最適な共済仕組み・サービスを提案しております。
- ニーズに合致したと思われる共済仕組み・サービスについては、重要事項説明（契約概要・注意喚起）を実施し、特にご確認いただきたい事項や不利益情報を分かりやすくご説明しております。

② 情報提供

- 各種公的保険制度等にかかる情報提供にあたっては、分かりやすい説明に努めております。

③ 契約締結時の対応

- 分かりやすい重要事項説明（契約概要・注意喚起事項）を通じてご提案した共済仕組み・サービスがお客さまの皆さま一人ひとりのご意向に沿ったものであるか確認しております。
- 保障の加入にあたり、共済掛金の他にお客さまの皆さまに手数料等にご負担いただいております。

I. 取組状況

2 お客さま本位の提案と情報提供

【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1・2・4・5）】

(2) 共済の事業活動②

④ 高齢者対応

- ご高齢のお客さまの皆さまに対しては、最優先にご子息などご家族も含めてのご意向確認の実施、必要に応じて管理者によるご意向確認の実施を行い、より丁寧かつ分かりやすい説明対応を行っております。
- 高齢者対応における親族等の同席の割合は、令和6年度は93.1%となりました。
- なお、令和7年度から新たに「共済契約のお手続きに関するご案内」をお渡しし、ご契約者さま・被共済者さまだけでなく、ご親族の方にもご安心いただけるよう努めております。

⑤ 各種手続きとアフターフォローの実施

- 各種手続きの実施にあたっては、組合員・利用者の皆さまに分かりやすくご説明しております。
- 将来、ご自身によるお手続きが困難になった場合の備えとして、「指定代理請求人」にご家族を指定いただくことをご案内しております。（生命共済の場合）
- 令和5年度からは支払い請求手続きの簡素化を推し進めるなど、組合員・利用者の皆さまの利便性向上に向けて取り組んでおります。
- ご加入後も、3Q活動を通じてアフターフォローを実施し、お客さまの皆さまの近況のご確認やライブイベントに応じた必要な情報提供を行うことに努め、組合員・利用者の皆さまに寄り添った取組みを実施しております。
- 保障の加入にあたり、共済掛金の他に組合員・利用者の皆さまに手数料等をご負担いただいております。

I .取組状況

3 利益相反の適切な管理 【原則3本文および(注)】

- ・当組合は、お客さまへの商品・サービス選定や情報提供にあたり、お客さまの利益を不当に害することがないように、「利益相反管理方針」に基づき適切に管理しております。

4 お客さま本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築

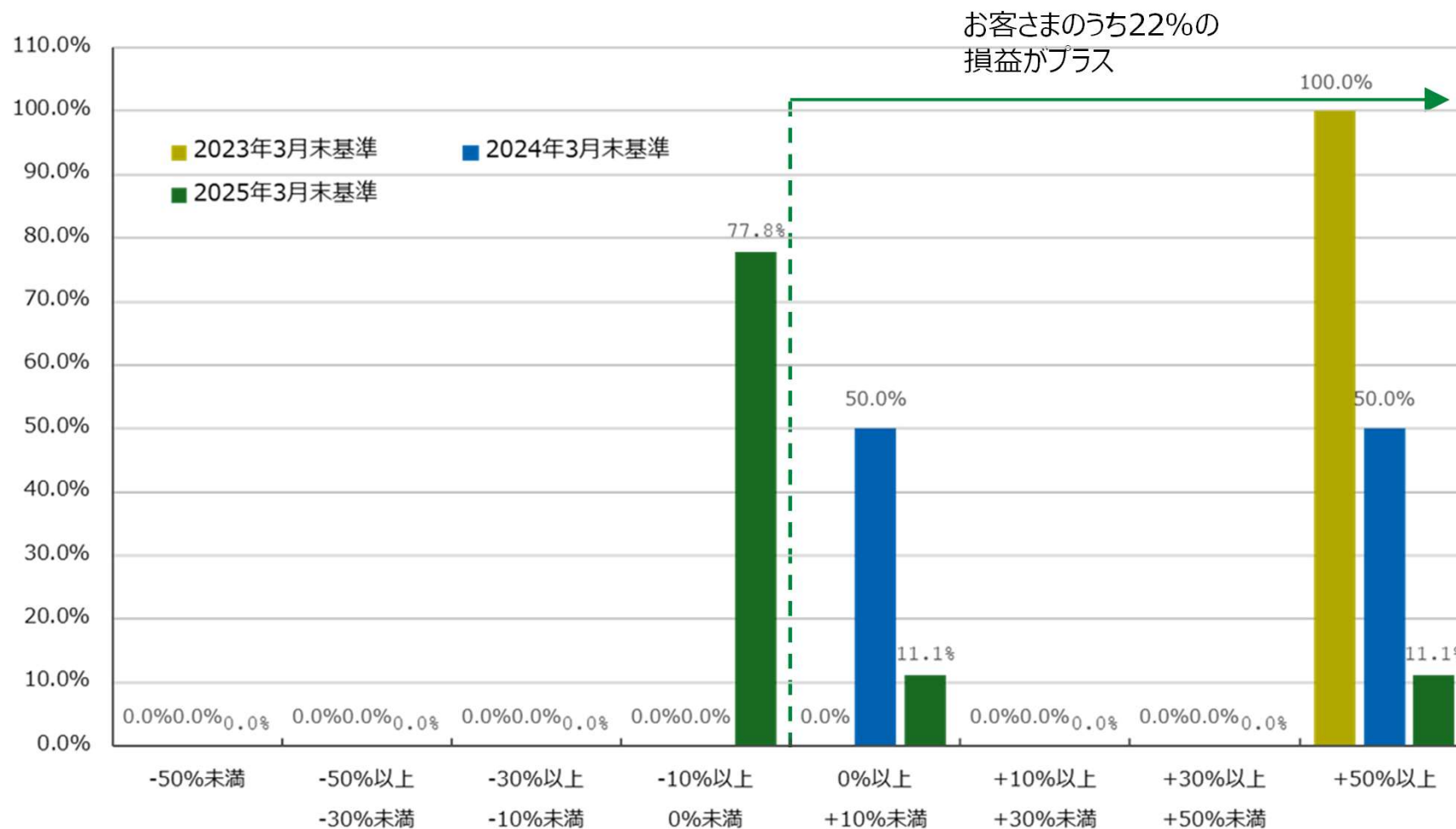
【原則2本文および(注)、原則6(注5) 原則7本文および(注)】

- ・当組合は、お客さまの皆さまの信頼を獲得し、満足していただける金融商品・共済仕組み・サービスを提供できるよう、職員の継続的・定期的な研修を実施するとともに、お客さまの皆さまの多様な資産運用や保障ニーズに応え、的確な金融商品・保障・サービスを提供、堅確な事務を行うため、資格取得の支援等に取り組んでおります。
- ・当組合は、お客さまの皆さまからいただいた声を誠実に受け止め、業務改善に取り組むとともに、お客さまの皆さまに対して、最適な金融商品、共済仕組み・サービスを提供できるよう、継続的に職員育成を行う態勢を構築しております。

Ⅱ.比較可能な共通KPI

1 運用損益別顧客比率（投資信託）

- 「運用損益別顧客比率」は、お客さまへ長期・分散投資やつみたて投資をご提案してきたことにより、2025年3月末時点では全体の22%のお客さまの損益がプラスとなりました。

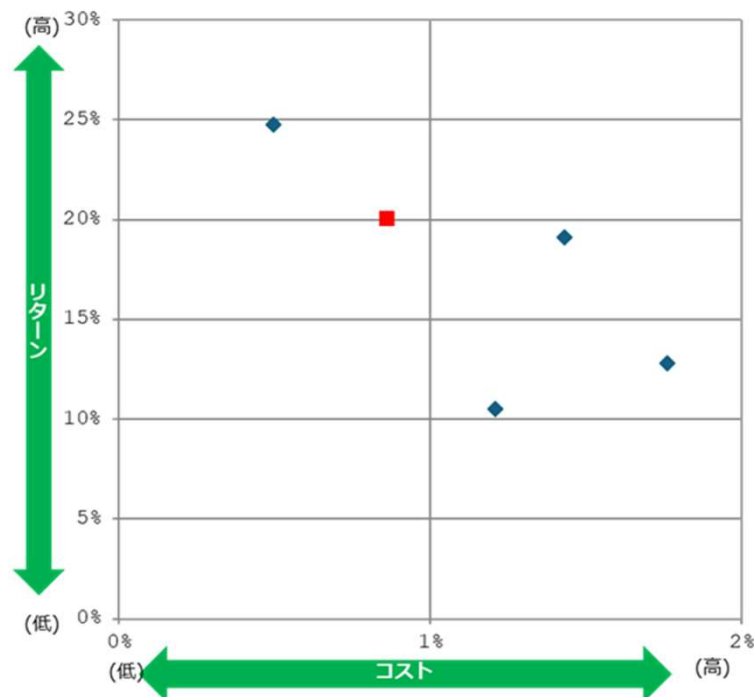


Ⅱ.比較可能な共通K P I

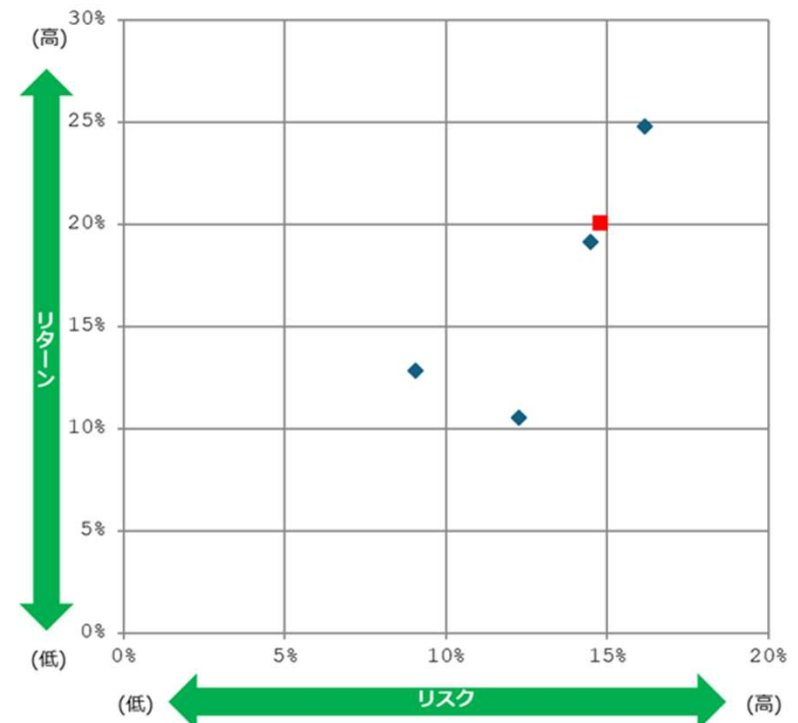
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (1/3) (2025年3月末)

- J Aバンクでは、取扱うファンドの運用実績をお客さま本位の業務運営の観点に基づきチェックし、運用実績が優良なファンドを選定しております。
- 2025年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト0.86%、平均リスク14.79%に対して、平均リターンは20.08%となりました。

＜預り残高上位20銘柄のコスト・リターン＞



＜預り残高上位20銘柄のリスク・リターン＞



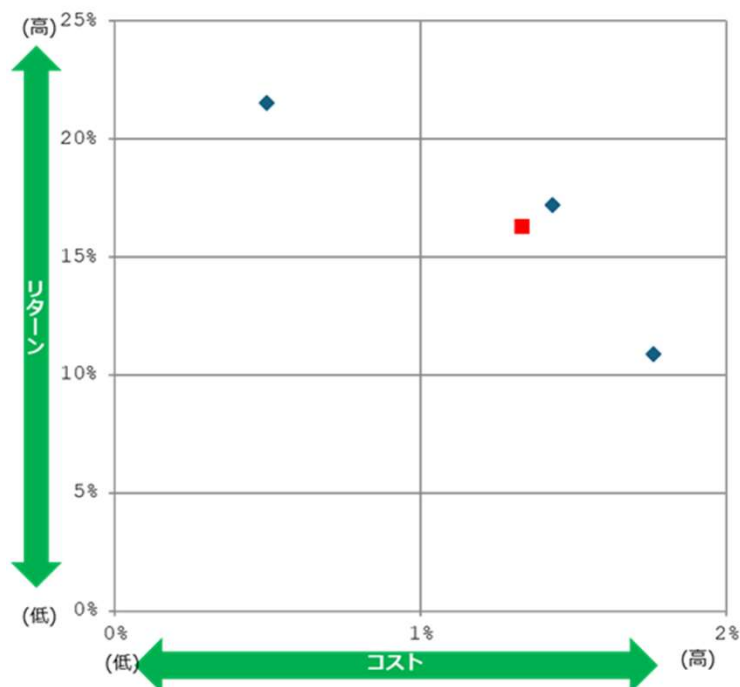
※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、次のページに記載しております。
※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通K P I

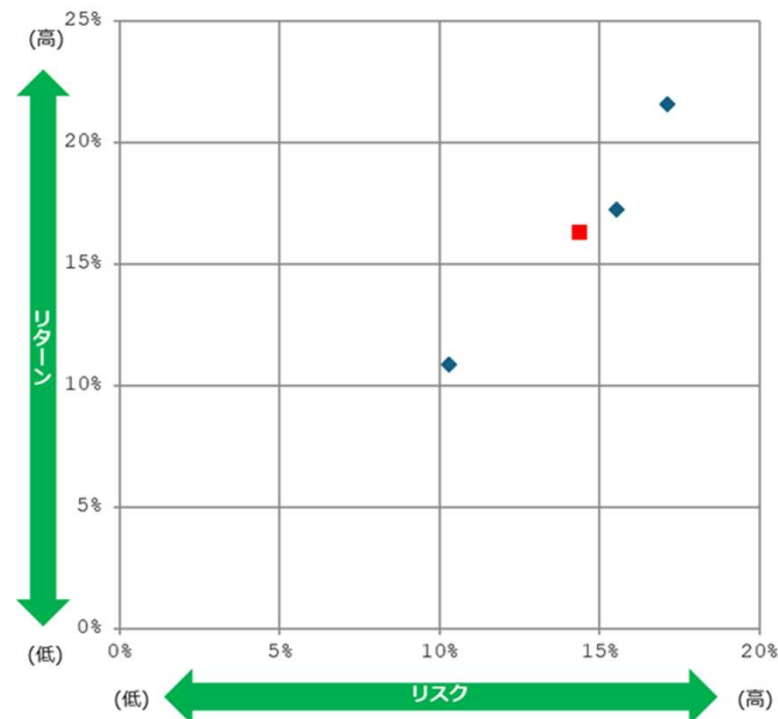
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (2/3) (2024年3月末)

・2024年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト1.33%、平均リスク14.36%に対して、平均リターンは16.30%でした。

<預り残高上位20銘柄のコスト・リターン>



<預り残高上位20銘柄のリスク・リターン>



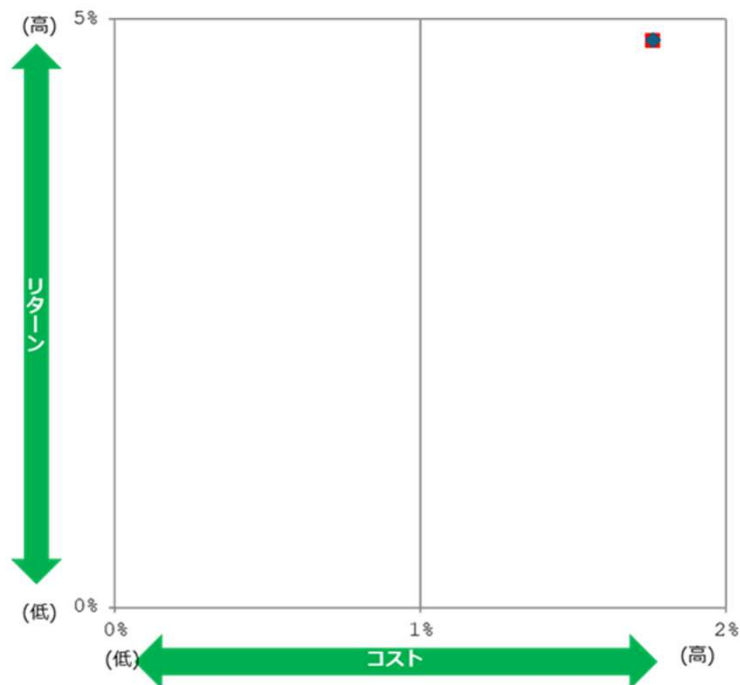
※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、次のページに記載しております。
※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通K P I

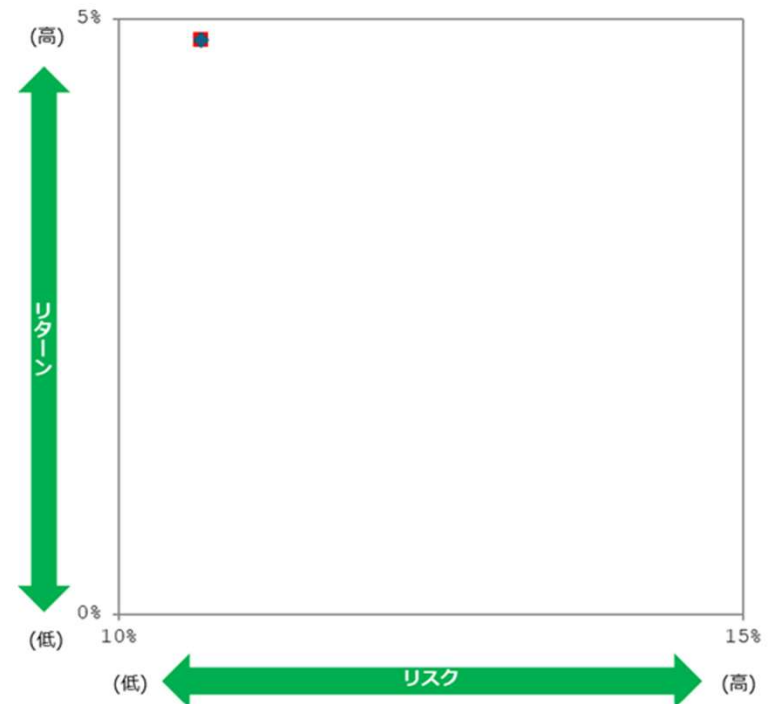
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (3/3) (2023年3月末)

- 2023年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト1.76%、平均リスク10.66%に対して、平均リターンは4.82%でした。

<預り残高上位20銘柄のコスト・リターン>



<預り残高上位20銘柄のリスク・リターン>



※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、次のページに記載しております。
※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

3 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (1/3) (2025年3月末)

【預り残高上位20銘柄（設定後5年以上経過したもの）】

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1	つみたて米国株式 S & P 5 0 0	農林中金全共連アセットマネジメント (株)	24.77%	16.16%	0.50%
2	おおぶね J A P A N (日本選抜)	農林中金バリューインベストメンツ (株)	10.52%	12.27%	1.21%
3	長期厳選投資 おおぶね	農林中金全共連アセットマネジメント (株)	19.14%	14.48%	1.43%
4	J A 資産設計ファンド (積極型)	農林中金全共連アセットマネジメント (株)	12.83%	9.07%	1.76%
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値		20.08%	14.79%	0.86%

※ 2025年3月末基準時点における共通 K P I の対象となるファンド数は4本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

3 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (2/3) (2024年3月末)

【預り残高上位20銘柄（設定後5年以上経過したもの）】

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1	長期厳選投資 おおぶね	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	17.22%	15.52%	1.43%
2	J A資産設計ファンド(積極型)	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	10.88%	10.30%	1.76%
3	つみたて米国株式 S&P500	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	21.55%	17.11%	0.50%
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値		16.30%	14.36%	1.33%

※ 2024年3月末基準時点における共通 K P I の対象となるファンド数は3本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。

Ⅱ.比較可能な共通K P I

3 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (3/3) (2023年3月末)

【預り残高上位20銘柄 (設定後5年以上経過したもの)】

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1	J A資産設計ファンド (積極型)	農林中金全共連アセットマネジメント (株)	4.82%	10.66%	1.76%
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値		4.82%	10.66%	1.76%

※ 2023年3月末基準時点における共通K P Iの対象となるファンド数は1本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。